

歯学部を有する大学病院の理念に関する質的研究 —SCAT を用いた価値観の抽出と教育的示唆—

志野久美子¹⁾ 大戸敬之¹⁾ 松本祐子¹⁾
岩下洋一郎²⁾ 吉田礼子¹⁾ 田口則宏^{1,2)}

抄録：組織が掲げる「理念」とは、その組織の存在意義や活動の基本的な価値観を示し、あらゆる活動に方向性を与えるものである。医療領域においても、理念を理解したうえで活動を実践している職員ほど、能力と仕事の適合感が高く、病院に対する愛着や士気の向上が認められたと報告されている。本研究では、日本の歯学部を有する大学病院が掲げる理念を対象に、その背後に存在する価値観を抽出し、教育現場への応用可能性を検討した。対象は、歯学部を有する全国29大学の大学病院とした。29大学病院の理念をSCAT（Steps for Coding and Theorization）を用いて質的分析を行った結果、78個の構成概念が得られた。それらをカテゴライズした結果、6つの大分類、すなわち1. 革新的取り組みの推進、2. 患者中心の全人的ケア、3. プロフェッショナルリズムと建学の哲学、4. 地域・社会への貢献、5. 高度な教育と専門人材の育成、6. 安全・安心・高品質へのこだわり、が得られた。これらを歯学教育モデル・コア・カリキュラムと内容を比較し、教育現場への応用の可能性を示した。一方で、理念の形式的な提示にとどまらず、実質的な浸透を図るためには、ロールモデルの役割が重要となる。これらの取組によって、理念が教育や臨床の現場においてより効果的に機能し、歯学教育の質の向上と地域・グローバルな医療環境に対応した人材育成が可能になると考えられる。

キーワード：理念 SCAT 歯学教育モデル・コア・カリキュラム 質的研究 歯学教育

緒言

組織が掲げる「理念」とは、その組織の存在意義や活動の基本的な価値観を示し、あらゆる活動に方向性を与えるものである¹⁾。医療領域においても、病院が理念を定めることで、患者や地域社会に対する姿勢だけでなく、職員のモチベーションや帰属意識にも影響を与えると指摘されている²⁾。特に、理念を理解したうえで活動を実践している職員ほど、能力と仕事の適合感が高く、病院に対する愛着や士気の向上が認められたと報告されている³⁾。

また、多くの病院がある中で、特に大学病院は、患者への「臨床」だけでなく、「教育」と「研究」の三位一体を担う場として位置づけられる⁴⁾。とりわけ歯学部を有する大学病院では、専門性の高い歯科医療や口腔ケアなどの地域医療や高齢社会への対応、さらには先端的な研究領域との接続など、多方面で独自の役割を果たしている⁵⁾。大学病院の理念には、教育研究臨床の要素から、多くの価値観が含有されていると考えられるが、こうした価値観は、医療現場で働くスタッフの行動指針や、学生や研修医のプロフェッシ

ナル・アイデンティティの形成に直結するものである。しかし、各病院の理念には、個別の違いを超えて共通する価値観が存在すると考えられるが、これらの共通点を体系的に分析し、全体としてどのような価値観が見出されるかについては、未だ明らかとなっていない。

そこで本研究では、日本の歯学部を有する大学病院が掲げる理念を対象に、その背後に存在する価値観を抽出し、教育現場への応用可能性について検討する。この分析によって、今後の歯学教育の方向性を示唆し、地域医療やグローバルな医療環境など大きく変革する状況にも対応可能な教育プログラムの再構築に資する指針を提示することを目指す。

方法

対象は、歯学部を有する全国29大学の大学病院とした。複数の大学病院を有する大学の場合は、歯科診療部門の規模が最も大きい病院を1つ選定し、計29施設の公式Webサイトを2025年2月に調査した。サイト上に掲載されている「理念」の文章を収集し、テキストファイルとして整形した。

¹⁾ 鹿児島大学学術研究院歯学域鹿児島大学病院歯科総合診療部（主任：田口則宏教授）

²⁾ 鹿児島大学学術研究院歯学域歯学系歯学総合研究科健康科学専攻歯学教育学分野（主任：田口則宏教授）

¹⁾ Department of General Dental Practices, Kagoshima University Hospital (Chief: Prof. Norihiro Taguchi) 8-35-1, Sakuragaoka, Kagoshima-shi, Kagoshima 890-8520, Japan.

²⁾ Department of Dental Education, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences (Chief: Prof. Norihiro Taguchi)

分析手法は、SCAT (Steps for Coding and Theorization)⁶⁾ を用いた質的分析を採用した。SCAT は、小規模かつ比較的短いテキストデータにも適用可能であり、理念文のような限られた情報からでも価値観を抽出し理論化することができる点で、本研究に適していると判断した。分析では、まず理念文をセグメント化し、注目すべき語句・言い換え・テキスト外の概念などをコード化した。その後、テーマ・構成概念を抽出し、ストーリー・ラインと理論化のプロセスを経て、全体を統合的に理解する手順を踏んだ。さらに、抽出された概念群を再整理・統合し、大分類（カテゴリ）に集約した。実際の分析の例を表1に示す。

また、分析の信頼性を高めるため、SCAT のトレーニングを受けた6名の研究チームで分析を進めた。分析は1名が主導して実施し、SCAT の分析シートを他のメンバーが確認・検討した。コード化やカテゴリ化の抽象化レベルについて意見交換を行い、必要に応じて表現や分類を調整した。明確な論理の飛躍は認められなかったが、各段階の結果を精査し、価値観の構造を統合的に取りまとめた。

結 果

29 大学病院の理念を SCAT による分析を行った結果、78 個の構成概念が得られた。それらをカテゴリ化した結果、6 つの大分類が得られた。大分類とそれぞれの概要については以下のとおりである。また、実際の構成概念については、表2に示した。

1. 革新的取り組みの推進

新しい技術や知見を積極的に取り入れ、医療の質を向上させるための革新を重視する価値観を示す。大学病院が持つ教育・研究機能と連動し、先端医療の開拓や臨床現場への還元が重要視される。グローバルな医療環境の変化にも対応する柔軟な姿勢を持つ。

2. 患者中心の全人的ケア

患者の身体的なケアだけでなく、精神的・社会的な側面にも配慮し、患者一人ひとりの個別的なニーズに応じた包括的支援を行う姿勢を示す。患者との信頼関係や協働を重視し、患者が安心して受けられる医療を提供することが重要である。

3. プロフェッショナリズムと建学の哲学

誠実さや倫理観、患者や社会への責任感を重視し、専門職としての在り方についての価値観を示す。建学の精神や大学の理念に根ざした倫理的行動規範が、医療従事者の意思決定や教育カリキュラムに大きな影響を与える。伝統的な価値観と現代医療を調和させた実践が求められる。

4. 地域・社会への貢献

地域医療の中核を担い、住民の健康増進に積極的に寄与する価値観を示す。病診連携、多施設間連携、地域特有の課題に応じた支援活動などを通じて、地域社会全体に貢献することが大学病院の使命とされる。公共性を重視し、地域の健康インフラとしての役割が期待される。

5. 高度な教育と専門人材の育成

高い専門知識と倫理観を備えた医療人を育成することを目的とした教育的価値観を示す。学生や研修医に対して、臨床現場と連動した実践的な教育を行い、次世代の医療従事者を育てる使命を果たす。高度な知識に加え、コミュニケーション能力やチーム医療の理解など、多面的な能力の育成が重要視される。

6. 安全・安心・良質な医療へのこだわり

患者が不安なく受診できるよう、安全管理や良質な医療提供の徹底を図る価値観を示す。医療事故の防止、ミスの最小化、高い診療水準の維持を通じて、信頼される医療サービスの提供を目指す。歯科医療では全身の健康と直結するため、特に安全性と良質な医療

表 1 SCAT の例

番号	テキスト	テキストの注目すべき語句	テキスト中の語句の言い換え	左を説明するようなテキスト外の概念	テーマ・構成概念	課題・疑問
1	心豊かな医療人による安心・安全・高度な医療を目指します。	心豊かな医療人 安心・安全・高度な医療 目指します	思いやり・共感力・倫理観を備えた専門 家 患者が不安なく受けられ、先端の技術水準を満たす医療 理想とする状態を追求する	技術だけでなく、患者の心に寄り添う態度を重視 リスク管理と高度医療のバランス 理想の医療を実現すべく、教育・研究・臨床を充実させる	「心」と「技術」の両立によるトータルケア 安全性を最優先する高度医療 温かみのあるプロフェッショナルが目指す理想の医療	「心豊か」という資質を育む教育方法とは？ 安全性と高度医療を両立するための具体的なシステムは？
	ストーリーライン（現時点で言えること）	「心」と「技術」の両立によるトータルケアを行い、安全性を最優先する高度医療の実践と、温かみのあるプロフェッショナルが目指す理想の医療が存在する。				
	理論記述	<ul style="list-style-type: none"> ・「心」と「技術」の両立によるトータルケア ・安全性を最優先する高度医療 ・温かみのあるプロフェッショナルが目指す理想の医療 				

表 2 6つの大分類と該当する構成概念

	カテゴリラベル	主な内容・キーワード	該当する構成概念
1	革新的取り組みの推進	先進的・高度医療の開拓 新しい技術・治療法の研究開発 真理を追求し、臨床への還元を図る姿勢 世界水準・トップレベルをめざす革新的取り組み	『研究・教育・臨床の三位一体』で高品質の医療と人材を育成し、社会貢献を果たす大学病院の在り方 最先端技術と人間性の融合による患者本位の医療 グローバルに通用する先端医療と包括的ケアを通じて、個々人の健康・幸福を実現する 高水準の医療技術と生命尊重の倫理観を両立させ、人間性を備えた専門家を育成する 臨床を基盤に教育と研究を深め、口腔医学の発展に寄与する歯科大学病院の使命 先端技術と優しさの両立 医学・歯学の革新を担う研究指向 先端技術と安全性の調和がもたらす QOL 向上 医療イノベーションへの貢献 トップレベルの医療と社会的包摂 公的組織としての健全性とイノベーション推進 『最高水準』への挑戦と維持 先端研究・高度医療の地域還元 口腔科学イノベーション×健全経営 先進性と教育へのコミットメント 信頼に基づく高水準の歯科ケア 教育・研究・臨床を統合する学術姿勢 歯科医学の進歩を通じた地域 研究と実践の統合で歯科医学の発展をリード 伝統と革新を融合し、地域に信頼される拠点
2	患者中心の全人的ケア	患者本位・相互信頼の医療 思いやり、優しさ、共感を重視するヒューマンタッチ 身体だけでなく、精神面・社会面も含めた全人的な支援 患者との協働を通して安心と満足を生み出すアプローチ	最先端技術と人間性の融合による患者本位の医療 『全人的アプローチ』へのコミットメント 命と尊厳を最優先する医療倫理人間愛 患者と医療人の相互満足が創る良循環 人間性を軸とした専門家養成 『心』と『技術』の両立によるトータルケア 温かみあるプロフェッショナルが目指す理想の医療 患者との信頼関係構築を最優先 『誠実・真心』を軸とした患者中心主義 ヒューマンタッチが根幹にある医療 共感と優しさが支える診療体制 患者との協働を通じた健康創造 喜び WB を重視する歯科医療 やさしさと高品質の医療実践 ヒューマンケアを重視したプロフェッショナル育成 共感をベースとした人間味ある医療 暖かい雰囲気重視するホスピタルケア

3	プロフェッショナリズム と建学の哲学	誠、至誠、尊厳保持などの道徳的・倫理的規範 創設以来の理念や哲学を行動指針として実践 医療人としての職業倫理を最優先し、患者や社会と誠実に向き合う 伝統的価値観を現代医療の場にどう活かすかを探究	命と尊厳を最優先する医療倫理
			一部は人間愛だが倫理軸も含む
			誠実・正直を軸とした医療倫理 患者との信頼関係を最優先
			建学理念を具現化する医療人育成
			患者視点・倫理観を基盤とする医療提供
			誠実・真心を軸とした患者中心主義
			感謝と奉仕を軸にした医療行動
			建学の哲学を医療に活かす
			尊厳を最優先する患者ケア人間性
			高度な専門性×豊かな人間性の育成
4	地域・社会への貢献	地域の中核病院としての自覚 病診連携・多施設連携による住民の健康増進 公衆衛生的視点を活かし、社会全体に貢献 社会的責任や公共性を重視し、医療インフラを支える	人間愛を核とした医療人の育成
			社会全体の健康…と近い要素
			地域のリーダーとしての社会的責任
			先端研究・高度医療の地域還元
			社会・地域との協働を重視する公的責任感
			地域医療を支える連携と教育
			病診連携で地域全体の健康を守る公共性
			患者本位×地域連携の実践
			歯科医学の進歩を通じた地域社会貢献
			歯科と内科の連携、住民の健康支援中核病院
5	高度な教育と専門人材の育成	優れた歯科医師・医療人を養成 倫理観と先端技術を兼ね備えた専門家を輩出 大学病院としての教育的使命臨床教育・研究指導 次世代を見据えた人材育成で社会に貢献	一部研究・教育・臨床の三位一体
			一部専門家を育成要素
			優れた人材育成による社会的責任の遂行
			人間性を軸とした専門家養成
			専門性を極める歯科医療人の育成
			専門力とヒューマニズムの融合
			建学理念を具現化する医療人育成
			臨床の現場から育まれる専門家教育
			地域医療を支える連携と教育
			先進性と教育へのコミットメント
			専門力と倫理を備えた歯科医師の育成
			ヒューマンケアを重視したプロフェッショナル育成
			良質医療と人間性教育の融合
			教育・研究・臨床を統合する学術姿勢
6	安全・安心・良質な医療へのこだわり	患者が不安なく受診できる医療環境 リスク管理、ミス防止、医療安全対策 高品質な医療サービスを保証する仕組み 全身の健康に直結する歯科医療においては特に重要視	先端技術と安全性の調和がもたらす QOL 向上
			安全性を最優先する高度医療
			患者満足と安全性を両立する先進歯科医療
			『やさしさ』と『高品質』から成る医療の実践
			良質な医療と予防で住民の健康を支える中核病院

提供への配慮が求められる。

考 察

本研究では、日本の歯学部を有する29大学病院が掲げる理念を質的に分析し、6つの価値観（革新的取り組みの推進、患者中心の全人的ケア、プロフェッショナルリズムと建学の哲学、地域・社会への貢献、高度な教育と専門人材の育成、安全・安心・良質な医療へのこだわり）が抽出された。

大学病院は臨床実習、臨床研修の教育にも大きな役割を果たす場であることから、歯学部でのカリキュラムの約6割の学修目標を示す歯学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）⁷⁾と内容を比較した。「革新的取り組みの推進」は、モデル・コア・カリキュラムにおける「情報・科学技術を活かす能力」（IT）や「科学的探究」（RE）に対応し、最先端の医療技術や知識を研究・臨床に応用する重要性を示している。歯学教育では、単なる知識の修得にとどまらず、実際の臨床現場での応用と技術革新が求められ、大学病院がその役割を果たすべきであると考えられる。また、「患者中心の全人的ケア」は、「患者ケアのための診療技能」（CS）や「総合的に患者・生活者をみる姿勢」（GE）との関連が強く、身体的な治療だけでなく、患者の心理的・社会的背景にも配慮した包括的なケアが重要であるとする現代の医療観を反映している。こうした視点は、患者との信頼構築や医療の質向上に直接つながるものである。さらに、「プロフェッショナルリズムと建学の哲学」は、「プロフェッショナルリズム」（PR）と深い関わりがあり、倫理観、責任感、誠実さといった医療人としての基本的な行動規範が重視されている。歯科医師としての職業倫理を教育カリキュラムに適切に組み込むことが、学生のプロフェッショナル・アイデンティティ形成に寄与することが示唆される。「地域・社会への貢献」は、「多職種連携能力」（IP）や「社会における医療の役割の理解」（SO）と関連し、地域医療の中核を担う大学病院の責任を示している。地域住民との連携や公共的な役割を果たすことが、病院と地域社会の発展に資することが期待される。「高度な教育と専門人材の育成」は、「生涯にわたって共に学ぶ姿勢」（LL）と連携し、次世代の医療人を育てる使命があることを強調している。臨床現場を基盤とした教育は、学生が実践的な知識と技能を修得し、社会で即戦力として活躍できる医療人の育成に重要である。最後に、「安全・安心・良質な医療へのこだわり」は、「医療の質と患者安全の確保」（C-3）や「診察・診断と治療技能」（E）に関連し、医療安全の確保と高い診療水準の維持が病院経営の根幹であることを示している。特に歯科医療では全身の健康との関連性が深いため、安全性に配慮した

良質な医療提供が必須である。

抽出された6つの価値観を教育現場に応用することにより、単なる知識の伝達を超えた、価値観に基づく行動の育成が可能となる。問題解決型学習（PBL）やシミュレーション教育を導入することで、「革新的取り組みの推進」を反映し、臨床現場での新技術や知識を学生が自ら探求し、実践的に学べる環境を整備する。倫理的行動を育むカリキュラムとして、「プロフェッショナルリズムと建学の哲学」を基に、臨床倫理のケーススタディや、学生が実際に直面する倫理的課題への対処を学べる小グループディスカッションなどを実施する。地域医療に密着した臨床実習プログラムの設計として、「地域・社会への貢献」を反映し、地域医療の現場で多職種連携を実践的に学べるプログラムを通じて、地域医療の中核を担う人材を育成する。

一方で、理念が組織内で形式的なスローガンにとどまり、実質的な影響を及ぼさない可能性も考えられる。先行研究においても、理念がメンバーの行動や意識に効果的に反映されるには、理念の浸透度や具体的な活用方法が重要な課題であると指摘されている⁸⁾。理念の有効性を高めるためには、理念を体現するリーダーシップが重要である。指導歯科医やスタッフが理念に基づいた行動を学習者に示し、現場での実践例をロールモデルとして示すことで、学習者が理念を具体的な行動に結びつけやすくなる。また、院内カンファレンスなど学習者やメンバーが集まる機会に、理念に関連する話題を実例とともに取り上げることで、職員が日常的に理念に触れる仕組みを構築することも有効と考えられる。

本研究はWeb上で公開されている理念を対象としたため、理念が実際の現場でどのように運用されているかについては十分に検証できていない。そのため、理念の浸透度やその影響については、今後の現場調査や職員へのインタビューを通じた研究が必要である。また、6つの価値観を意識した教育プログラムの設計を通じて、理念が学生の行動にどのように反映され、理念が実際の医療現場で効果を発揮するかを追跡する長期的な研究が求められる。

結 論

本研究では、歯学部を有する大学病院の理念から抽出された6つの価値観をモデル・コア・カリキュラムと比較し、教育現場への応用可能性を示した。一方で、理念の形式的な提示にとどまらず、実質的な浸透を図るためには、ロールモデルの役割が重要となる。これらの取り組みによって、理念が教育や臨床現場においてより効果的に機能し、歯学教育の質の向上と地域・グローバルな医療環境に対応した人材育成が可能となると考える。

本研究に関して開示すべき利益相反事項はない。

文 献

- 1) 柴田仁夫. 経営理念の浸透に関する先行研究の一考察. 経済科学論究 2013; 10: 27-38.
- 2) 中村悦子, 清水理恵, 尾崎フサ子. 病院職員の職務満足とその影響要因. 新潟青陵学会誌 2012; 4: 83-92.
- 3) 井上光朗. 理念等の浸透度による病院職員の意識の違い. 日本医療マネジメント学会雑誌 2013; 14: 133-137.
- 4) 猿田享男. 大学病院における臨床・教育・研究の在り方. 学術の動向 2007; 12: 22-26.
- 5) 五月女さき子, 船原まどか, 川下由美子, 梅田正博. 大学病院における周術期口腔機能管理: 予防歯科の役割と今後の展望. 口腔衛生学会雑誌 2017; 67: 262-269.
- 6) 大谷 尚. SCAT: Steps for Coding and Theorization —明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能

な質的データ分析手法—. 感性工学 2011; 10: 155-160.

- 7) 文部科学省. 歯学教育モデル・コア・カリキュラム (令和4年度改訂版). https://www.mext.go.jp/content/20230428-mxt_igaku-000029086_1.pdf (最終アクセス日 2025. 3. 5).
- 8) 瀬戸正則. 経営理念の組織内浸透に係わる先行研究の理論的考察. 広島大学マネジメント研究. 2009; 9: 25-35.

著者への連絡先

志野久美子

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1

鹿児島大学学術研究院医歯学域 鹿児島大学病院歯科総合診療部

TEL 099-275-6049 FAX 099-275-6049

E-mail: kumikoi@dent.kagoshima-u.ac.jp

A qualitative study of the philosophy of university hospitals with dental schools —Extraction of values and educational implications using the SCAT—

Kumiko Shino¹⁾, Takayuki Oto¹⁾, Yuko Matsumoto¹⁾,
Yoichiro Iwashita²⁾, Reiko Yoshida¹⁾ and Norihiro Taguchi^{1, 2)}

¹⁾ Department of General Dental Practices, Kagoshima University Hospital

²⁾ Department of Dental Education, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Sciences

Abstract : An organization's "philosophy" is a statement of its *raison d'être* and the basic values of its activities, and it provides direction for all of its activities. Even in the medical field, it has been reported that employees who perform activities based on an understanding of the philosophy have a greater sense of fit between their abilities and their work, and that their attachment to the hospital and morale are improved. In this study, we focused on the philosophies of university hospitals with dental schools in Japan, extracted the values behind them, and examined their applicability to the field of education. The subjects were university hospitals of 29 universities in Japan that have dental schools. The method of analysis was qualitative analysis using SCAT (Steps for Coding and Theorization). 78 constructs were obtained as a result of the analysis of the philosophy of the 29 university hospitals using SCAT. These were grouped into six main categories: 1) promotion of innovative initiatives, 2) patient-centered holistic care, 3) professionalism and founding philosophy, 4) contribution to community and society, 5) continuing education and professional development, and 6) commitment to safety and quality. These were compared in content to a model curriculum for dental education, and the potential for application to the field of education was demonstrated. These efforts will enable the philosophy to function more effectively in educational and clinical settings, improve the quality of dental education, and develop human resources that can respond to regional and global medical environments.

Key words : philosophy, SCAT, model curriculum for dental education, qualitative research, dental education